

## 年間第4主日

ルカ 4・21-30

32016. 1. 31

イエズス会 柴田 潔

今日朗読された箇所は、先週の続きです。イエスの就任演説、救いのメッセージを聞いた民衆の反応です。はじめ人々は、驚いて満足していましたが、イエスの命さえ狙う、衝撃的な結びになっています。ルカ福音書は、弟子たちを福音宣教者に育てていくプロセスを中心に描いたと言われています。けれども、宣教のスタートでつまづいています。人気は一日ももちません。2週続けて信者講座で“主の祈り”をテーマにお話ししたテキストの著者カルロ・マリア・マルティニーは、こう解説しています（『宣教者をそだてるイエス — ルカ福音書による黙想』）。「イエスは、敗北者としてナザレを去った。追い出されて何もできなかった。イエスは無力だった。けれども、イエスのこのような失敗は、神の国にはつきもの。福音を宣教するプロセスでは例外ではない」と言っています。つまり、イエスにとって抵抗にあうことは織り込み済みだった、ということです。今日の福音を読んで、出生を問題にした民衆、崖に突き落とそうとした民衆を、わたしたちは非難するかもしれませんが、実は、イエスにしたら計算済みでした。マルティニー枢機卿は、ルカは「宣教に失敗はつきもの」と教えようとした、と分析しています。わたしたちも、宣教には抵抗や反発がつきものだ、と心に留めましょう。

もうひとつ、今日の福音から学ぶことができます。イエスの自由さに倣うことです。ナザレは、イエスの地元でした。故郷で奇跡を行えば、人気が出て仕事も増えたでしょう。お母さんのマリアにも、楽をさせてあげられたかもしれません。でも、イエスの考えは、別のところにありました。地元の利害に縛られることを嫌いました。イエスの目指していたことは、もっと広い神の国でした。小さな村の説教者ではなくて、神の国を広げていくことを目指しました。わざわざ、たくさんある旧約の言葉から「貧しい人に福音を」という箇所を選ばれたのも、苦しい人のことをまず考えたからでした。広い世界に飛び出していくイエスの自由さをわたしたちも学びましょう。

福音宣教に失敗はつきもの、目先の損得ではなくて広い神の国を目指していく。この2つのことを心に留めましょう。

さて、わたしからお願いがあります。先週の9時半のミサでもお話ししましたが、今、コンゴ民主共和国からの難民が急に増えてきています。1月27日には、

同じ飛行機で5名がコンゴから逃げてきて、空港からそのまま四谷にある難民支援協会 (<https://www.refugee.or.jp/>) の事務所へ相談に来られました。けれども、フランス語ができるスタッフが病院の付き添いなどで不在だったので、Google 翻訳で対応したそうです。でも、それだと正確なコミュニケーションが取れません。お願いしたいボランティアは、相談時の通訳と病院の付き添いです。登録をして「〇日の午前中に、予約が入ったので事務所まで来てください」という依頼に応じるものです。フランス語ができて、自由な時間がありそうな方をご存知でしたらご紹介ください。聖堂の入り口に資料がプリントしてあります。また、日本に来られた難民のことを知りたいという方もお取りください。自由を求めて命からがら逃げてきて、厳しい寒さの中、野宿している人もいます。今、もっとも厳しい日々を送っている難民の方に、心を寄せてください。

フランス語がおできになるボランティアさんを見つけるのは難しいと思います。でも、失敗は織り込み済み、という気持ちで探していただけるとありがたいです。